

2019年5月23日

第6期(2018-2019) FD推進委員会 中間活動報告

FD推進委員会

【活動経過】

第1期(2008年度～2009年度)

2008年4月 白百合女子大学FD推進委員会規程 施行

第1期 重点的課題

1. 教員に対する授業改善に関する意識調査
2. よりよい授業づくりのための懇話会(学部生対象)
3. 公開授業に対する相互評価の試み
4. 学生による授業評価アンケート(試行版)

2008年12月 第1回よりよい授業づくりのための懇話会開催(学部生対象)

2009年1月 学生による授業評価アンケート(試行版/任意25科目)実施

2009年1月 授業公開(長島世津子先生)実施

2009年2月 授業改善に関する教員意識調査

2009年12月 第2回よりよい授業づくりのための懇話会開催(学部生対象)

第2期(2010年度～2011年度)

2010年4月 第2期1年目 重点的課題

1. 授業に関するアンケートの統一による全学実施
2. 大学院におけるFD活動の推進
3. 形成的評価による授業改善に向けての方途の研究
4. FD講演会の開催

2010年11月 第3回よりよい学びのための懇話会開催

※学部生(第3回)、大学院生(第1回/専攻別)を別々に開催

2010年11月 形成的評価の現状についてのアンケート実施(専任教員対象)

2010年12月 授業改善のための学生アンケート(通年・後期科目)全学実施開始

※専任教員よりアンケート結果に対する所見を集め、振り返りを行う
試みも同時に開始

2011年3月 形成的評価アンケートにもとづく取組事例集 作成・配付

2011年4月 第2期2年目 重点的課題

1. 授業改善のための学生アンケートの改善(前期科目対象に追加実施)
2. よりよい学びのための学生懇話会の改善(学部・大学院の隔年実施)
3. 授業アンケートの結果公表のスタイル確立
4. FD活動への理解促進(大学ニュースへの掲載)

2011年7～8月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施開始 ※以降、年2回（前期末・学年末）学部・大学院共に継続して実施
2011年9月	2010年度授業改善のための学生アンケート集計結果公表（冊子・HP）
2011年10月	第2回よりよい学びのための院生懇話会実施（大学院生対象・専攻別）
2011年12月	2010年度懇話会での意見に対する回答掲示（図書館内）
2011年12月 ～翌01月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施

第3期（2012年度～2013年度）

2012年4月	第3期 重点的課題 1. 授業改善のための学生アンケートの改善 2. FD講演会の開催
2012年4月	大学ニュースリスブランへFD関連記事掲載
2012年6月	第1回FD講演会実施（「大学教育と質保証」高祖敏明先生）
2012年7～8月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
2012年12月	第4回よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）実施
2013年1月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
2013年7月	第3回①よりよい学びのための院生懇話会（大学院生対象・全専攻合同）実施
2013年7～8月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
2013年11月	FD教職員ワークショップ実施（「白百合女子大学における学修支援～学生のよりよい学びを促すために～」）
2013年11月	第3回②よりよい学びのための院生懇話会（大学院生対象・全専攻合同）実施
2014年1月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施

第4期（2014年度～2015年度）

2014年4月	第4期 重点的課題 1. 授業改善のための学生アンケートの改善 2. 授業改善のための学生アンケートの集計結果の公表および活用
2014年7～8月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
2014年11月	第5回よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）実施
2014年11月	FD教職員ワークショップ実施（「白百合女子大学における学修支援 Part II～卒業するまでに身につけてもらいたいこと～」）
2015年1月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
2015年2月	2011-2013「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表 2014 前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
2015年6月	2014 後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表

2015年7～8月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
2015年10月	第4回よりよい学びのための院生懇話会（大学院生対象・全専攻合同）実施
2015年10月	FD教職員ワークショップ実施（「白百合女子大学における学修支援 PartⅢ～アクティブラーニング～」全2回）
2016年1月	2015前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
2016年1月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
2016年6月	2015後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表

第5期（2016年度～2017年度）

2016年4月	第5期 重点的課題 授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
2016年7～8月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施 授業改善のための学生アンケートについての教員アンケート全学実施
2016年11月	第6回よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）実施
2017年1月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
2017年6月	2016前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表 2016後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表 FD教職員ワークショップ実施「授業運営の現状と課題について」 ^{*1}
2017年7月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
2017年8～10月	2017前期授業改善のための学生アンケート（前期科目）顕彰授業表彰 および 顕彰授業における工夫 Web 公表 ^{*2}
2017年10月	第5回よりよい学びのための院生懇話会（大学院生対象・全専攻合同）実施
2018年1月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
2018年4～5月	2017後期授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業表彰 および 顕彰授業における工夫 Web 公表 ^{*2}

平成29年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ1 教育の質的転換

^{*1} 申請項目10『FD実施のための組織の設置及び教員の参加状況』 対応

^{*2} 申請項目8『学生による授業評価結果の活用』 対応

第6期（2018年度～）

2018年4月	第6期 重点的課題 授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
2018年7月	FD講演会実施（「大学生の発達障害とその対応方法について」五十嵐一枝先生）
2018年9月	2017前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表

	2017 後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
2018 年 7～8 月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
2018 年 10 月	2018 前期授業改善のための学生アンケート（前期科目）顕彰授業表彰 および 顕彰授業における工夫 Web 公表
	第 7 回よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）実施
2019 年 1 月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
2019 年 4～5 月	2018 後期授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業表彰 および 顕彰授業における工夫 Web 公表

【2018 年度 活動報告～第 6 期 1 年目～】

I. 授業改善のための学生アンケート（学部／大学院）

経年比較のため前年度と同じ質問項目、形態で実施し、集計結果は各授業担当教員へフィードバックした。教員から寄せられた所見は、委員会で共有したのち、各科もしくは各関連部署へ案件をつなぐことで改善への具体的な取り組みを促した。また、アンケート結果の全体的な傾向と担当教員および FD 推進委員会から学生へ向けてのメッセージを掲載した報告書を Web 公表 (<http://www.shirayuri.ac.jp/guide/financial/>) した。

さらに、2017 年度よりアンケート結果を活用した顕彰制度を導入し、評価の高い授業の優れた点を全学的に共有することで、個々の授業への具体的なヒントを提供するとともによりよい授業を作りあげる機運を高めていくことになった。詳細は添付資料 1 のとおり。

第 6 期重点的課題であるアンケート自体の再点検・再検討については、学長諮問『「授業改善のための学生アンケート」結果の活用について』（2018 年 10 月 10 日付）の内容も含めて第 6 期 2 年目にかけて検討をすすめていく。

前期 2018 年 7 月 17 日（火）～ 8 月 6 日（月） 実施科目数：532 科目

後期 2019 年 1 月 10 日（木）～ 1 月 30 日（水） 実施科目数：780 科目

II. よりよい学びのための学部生懇話会（学部生対象）

「学部生対象」と「大学院生対象」を隔年実施しており、2018 年度は「学部生対象」で「モチベーションの上がる授業とは」をテーマに実施した。参加人数こそ少なかったものの様々な立場からの学生意見があり、学科・学年を超えた学生同士の交流の場としても貴重な機会となった。詳細は添付資料 2 のとおり。

実施日時 2018 年 10 月 15 日（月）12:00～12:55

参加者数 学部生 9 名、教員 3 名、職員 3 名

Ⅲ. FD 講演会「大学生の発達障害とその対応方法について」

大学生の発達障害はどのような特徴を持っているのか、教員はどのような対応が求められるのかについて、人間総合学部発達心理学科 教授 五十嵐一枝先生にご講演いただいた後、質疑応答を行った。ウェルネスセンターとの共催。

実施日時 2018年7月12日(木) 16:00～17:30

テーマ 大学生の発達障害とその対応方法について

参加者数 専任教員 68名

※専任教員参加率 100% (欠席 14名への対応含む) *

* 平成 30 年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ 1 教育の質的転換
3-⑰ 『FD 実施のための組織(委員会等)の設置及び教員の参加状況』 対応
本学回答 1.実施 得点 4 点(満点)

以 上

「授業改善のための学生アンケート」2018 年度前期 顕彰授業について

2018 年 10 月 11 日

白百合女子大学 FD 推進委員会

2010 年度より全学で実施してまいりました「授業改善のための学生アンケート」に、2017 年度より集計結果を活用した顕彰制度が導入されることになりました。アンケートの結果は、これまでも個々の授業改善に役立てられてきましたが、今後は高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有してまいります。

2018 年度前期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業についてのインタビュー等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2018 年度前期

少人数部門

木 2 前 「ホスピタリティマネジメント演習」 島田 由香 (文学部英語英文学科)

多人数部門

金 2 前 「絵本演習Ⅰ／絵本演習」 やた みほ (人間総合学部児童文化学科)

※「絵本演習Ⅰ」は人児・前期科目、「絵本演習」は文児・通年科目で共通開講しています。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的 (実施要領より抜粋)

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 9 項目 (項目毎の平均点の合計/45 点満点) とする。
 - Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
 - Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。
 - Q6 教員の話は聞き取りやすかったですか。
 - Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
 - Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。
 - Q10 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。
 - Q11 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたと思いますか。
 - Q12 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
 - Q13 この授業の内容に興味を持つことができましたか。
- ④ 顕彰部門は、「少人数部門」(回答者数 6~25 名)と「多人数部門」(回答者数 26 名以上)の 2 部門とする。
- ⑤ 顕彰対象は各部門第 1 位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業は大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」2018年度後期 顕彰授業について

2019年4月18日

白百合女子大学FD推進委員会

2010年度より全学で実施してまいりました「授業改善のための学生アンケート」に、2017年度より集計結果を活用した顕彰制度が導入されることになりました。アンケートの結果は、これまでも個々の授業改善に役立てられてきましたが、今後は高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有してまいります。

2018年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業についてのインタビュー等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2018年度後期

少人数部門

月1後 「臨床心理面接特論Ⅱ」木部 則雄（人間総合学部発達心理学科）

※「臨床心理面接特論Ⅱ」は大学院科目<博士課程(前期)発達心理学専攻>です。

多人数部門

金2後 「絵本演習Ⅱ／絵本演習」 やた みほ（人間総合学部児童文化学科）

※「絵本演習Ⅱ」は人児・後期科目、「絵本演習」は文児・通年科目で共通開講しています。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の9項目（項目毎の平均点の合計/45点満点）とする。
 - Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
 - Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。
 - Q6 教員の話は聞き取りやすかったですか。
 - Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
 - Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。
 - Q10 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。
 - Q11 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたと思いますか。
 - Q12 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
 - Q13 この授業の内容に興味を持つことができましたか。
- ④ 顕彰部門は、「少人数部門」（回答者数6～25名）と「多人数部門」（回答者数26名以上）の2部門とする。
- ⑤ 顕彰対象は各部門第1位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業は大学Webサイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学FD推進委員会

2018年度 よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）報告書

2018年11月8日

白百合女子大学FD推進委員会

この「よりよい学びのための学生懇話会」は、学生より、普段考えていること、感じていること、意見などを聴き取り、大学の改善に役立てることを目的に開催しているものである。

2018年度は、「モチベーションの上がる授業とは」をテーマに開催した。

<実施概要>

日時：2018年10月15日（月）

12時～12時55分（3時間目の授業のない一部の学生は、13時10分頃まで）

場所：めぐみ荘

参加者：学生9名（文英4年1名、文国3年1名、人発1年5人、人初2年2人）

教員3名、職員3名

形式：事前に用意したテーマ「モチベーションの上がる授業とは」について、昼食・茶菓をいただきながら懇話会を進行した。

司会：波多江洋介

<内容>

「授業の内容、形態、教え方などなんでもよいので、モチベーションの上がる授業について教えてほしい。」

1. クラス分けについて

- ・英文科は、クラス分けがあるのに、同じ教科書を使っていて、たいしてやっている内容が変わらないように思う。また、レベルは、先生の教え方によって左右される。
- ・ビジネスイングリッシュで中学・高校の内容からやるのは、専門的でないと思う。
- ・すごく一生懸命の学生と、単位だけとればいよいよと思っている学生が同じ授業を受けるのはおかしい。学生が学びたいと思うレベルに合わせた授業をしてほしい。

2. 先生の話について

- ・学生の興味を引くような現場でおこったことなどの雑談をしてもらうのは興味がある。
- ・生徒同士が話していることにも興味を示して、共有してもらえるのはよいと思う。
- ・英語の授業で、話がおもしろく、生徒に冗談を言ってくれるフランクな先生がいる。
- ・手遊びが入る授業は、楽しくて眠くならない。
- ・分野が違ったら同じことはできないし、どの先生にも同じような話芸？は求められないだろう。

- ・先生のアクションによってモチベーションがあがる。
- ・レジュメは読めばわかるので、現場の話を聞きたい。

3. 授業のスタイルについて

【双方向の授業が良い】

- ・ディスカッション、プレゼンテーションなど、自分の意見がしっかり述べられる授業だと、モチベーションが上がる。先生が、レジュメを読み上げるだけの授業では、モチベーションが上がりにくい。
- ・淡々と授業されると眠たくなる。教員と先生の距離が開きすぎていると、やり取りしてもらえると眠くならない。覚えるだけの授業になってしまうという話があったが、背景も一緒に教えてもらえると、覚えやすくなる。
- ・少人数で、意見を出し合うのは、モチベーションが上がる。
- ・ディスカッションは、一方通行にならないのでよい。
- ・ディスカッションは大事だと思うが、グループのメンバーの様子によって、話しやすいか話しにくいかが、影響される。
- ・例をディスカッションしたり、演じてみたりするのはよい。レジュメと半々ぐらいだとよいのではないか。
- ・1年生の時の国語の先生が、学生数が多いのに訂正してくださっているのはモチベーションが上がった。

【双方向のスタイルは苦手だ】

- ・双方向は嫌。自分に意見を出すのが苦手。意見を出す人につられて軽く出すけど、苦手。先生に急に当てられたりすると心臓がばくばくする。でもそれで、一生懸命聞けるのかな、とは思う。
- ・私はディスカッションするのは嫌だ。ディスカッションをしますといわれると、モチベーションが下がる。自分の意見を言うと、私は他人と違うのかなと不安に思う。

4. マナーのよくない学生と同席すること

- ・先生が、寝ている生徒を怒る時間が嫌だ。自分が叱られているようで、時間も取られて嫌な気持ちになる。大学生だし、寝る人はやる気がないのだから、そのことに時間を割くことはないのではないか。
- ・寝ている人は放置してほしい。病気で寝ている人もいる。
- ・〇〇（具体的な科目名／多人数講義科目）などは、一方通行の授業になりがちだ。寝る人は寝る。そういう授業で落ちていく人がいる。
- ・〇〇さんは、夢の世界に旅立っているので・・・みたいにおもしろく変換してくれる先生があり、良かった。
- ・私語は、まわりの人が迷惑なので注意してほしい。
- ・授業の終了間際に終わりかけに勝手に教科書や筆記用具を片付け始める生徒がいる

のが嫌だ。片付け始める人のガサガサする音で先生の話が聞こえにくくなるし、先生に対しても失礼だと思う。先生もやめたほうがいいかなと思い、話しかけの話をやめてしまう。それを見て、「話が聞けなかったなあ」と思うことになる。

5. やる気のない先生について

- ・やる気のない先生がいる。機械の前で、30分ぐらい付きませんねえと言っている。やる気のない生徒にとっては良いので悪循環だ。
- ・学生と先生だと上下関係があるので本当の気持ちが言えない。
- ・先生同士で授業を見合うなど、可視化していくことが大切ではないか。
- ・人数の少ない授業でアンケートに書くと、書いた人がわかってしまうので、本音が書きにくい。

6. 成績評価について

- ・全員に、「S」や「A」という評価がつく授業はモチベーションが下がる。
- ・大学では、期末の試験のテスト用紙が返ってこない場合が多いのは不満だ。どこがどう間違っていたのかが知りたい。フィードバックがほしい。
- ・テストを学生に採点させて、提出させる先生がある。自分の評価がすぐにわかり、その場で復習もできて効率的だと思う。

7. 学生自身が既に持つモチベーション

- ・どの講義も楽しいと思っている。先生が好きということがある。大学生になれたことがうれしい。自分にモチベーションを感じる。
- ・自分の人生において〇〇をやりたいから学ぶ、という目的をもって入学してきている生徒は、自らモチベーションを持っていると思う。
- ・やりたいことを明確化していくためには、先輩との関わりがあるとよい。授業においても、社会人の方とか現場の先生の話聞く機会があるとよい。

8. 学生によるモチベーションを上げる工夫

- ・英語の翻訳を見ていただいている。レポートに目を通してくださって、加筆訂正してもらう。そうするとモチベーションがあがる。
- ・入学するときに「優」の成績しかとらないことを目標にしたので、それはよかったかもしれない。夢がない場合は、「この授業で優をとる。」というような、目の前の目標を考えるとよいかもしれない。

<参加者からの感想>

- ・他の人からたくさん意見が聞けて良かった。
- ・普段、幅広い学科の人と話す機会がないので良かった。
- ・2年ぶりの参加だった。1年生の時にも参加した。似たような意見だなと思った。
- ・先輩のようになりたいと思った。
- ・いつもは、人に名前に覚えられることもないぐらい1人だけど、このように人を平等に扱ってくれる会はよかった。
- ・お菓子もおいしかった。
- ・ロッカー設置と1号館の階段の手すり設置のことは、合同委員会で学生会からお願いしたい。

<考察>

懇談会は、集まりも良く、終始和やかな雰囲気の中で進められた。学生たちは、それぞれ積極的に自分の意見を述べていた。

学生から出された意見の中には、教員個人個人がそれぞれの授業の中に、すぐにでも取り入れることができるものもあったが、一方で、組織全体で取り組むべき課題も出されており、こうした課題には長期的な視点にたって大学全体で取り組む必要があると思われた。

以上
記録：川口

白百合女子大学 2018 年度 F D 講演会

大学生の発達障害とその対応方法について

2018 年度 F D 講演会は、ウェルネスセンターとの共催により、大学生の発達障害はどのような特徴を持っているのか、教員はどのような対応が求められるのかについて、人間総合学部 発達心理学科 教授 五十嵐一枝先生にご講演いただきます。

大学生の発達障害について理解を深めるとともに、アドバイザーや授業担当教員として“気になる学生”たちへの接し方について、ともに考える機会になれば幸いです。

日時：2018 年 7 月 12 日（木）16:00～17:30

場所：11 号館 3 階 クララホール

講師：五十嵐 一枝 先生（人間総合学部 発達心理学科 教授）

対象：本学全専任教員/事務職員（事務職員は事前申込制）

プログラム

1. 講演（60 分）
2. 質疑応答（15 分）
3. ウェルネスセンターにおける学生の対応ケースについて（10 分）

- * 私立大学等改革総合支援事業への申請要件を満たすため「全員出席」にご理解とご協力をお願いいたします。
やむをえず欠席をされる場合には 7/5（木） までに教務課へご連絡ください。
欠席された場合は、後日講演会動画を視聴し、小レポート（感想など）の提出をお願いする予定です。
- * テーマに関して、特に知りたいことやお悩みのことなどがありましたら、事前にご質問をお預かりいたします。
お預かりしたご質問は、五十嵐先生へ事前にお渡ししますので、講演内容に反映される可能性があります。
ご希望の場合には、以下に記入のうえ、6 月末までに教務課カウンター上の BOX へご提出ください（電子メール fd-c@shirayuri.ac.jp でも受け付けいたします）。また当日も質疑応答時間を設けております。

主催：ウェルネスセンター / FD 推進委員会

【問い合わせ先】教務部教務課（内線 623）平林・見留・松下

-----キリトリ-----

【質問用紙】

御名前（任意）：